

2000 年以降の中国語複文研究の動向

長谷川 賢

1. はじめに

中国語の複文に関する研究は、従来、単文と比較すると少なかったが、2000 年以降、いくつかの重要な研究を契機として、研究論文が増加している。本稿は、2000 年以降の現代中国語の複文に関する研究について、特に中国における研究の動向を示す。本稿の構成としては、まず、2 節で複文を包括的に論じた研究を分野別に概観し、続く 3 節では、個別の複文の研究動向として、研究が盛んな因果複文を取り上げ、その研究動向を概観する。

2. 複文の包括的研究の動向

まず、本節では、複文を包括的に論じた研究の動向を概観する。現代中国語の複文研究において、近年特に盛んに研究されている分野としては、記述文法的な研究、認知意味論に基づく研究、及び談話分析 (discourse analysis) の三つが挙げられる。以下、分野別に代表的な論考を中心に研究動向を示す。

2.1 記述研究

中国語の複文の記述的な研究は、古くから多数の研究蓄積があるが、2000 年以降に発表された包括的な記述研究については、邢福义 2001、徐阳春 2002、李晋霞 2015 などが挙げられる。本稿では、影響力が大きい邢福义 2001 と最近発表された李晋霞 2015 を概観する。

2.1.1 邢福义 2001

邢福义 2001 は中国語複文研究の第一線で活躍する氏の 20 数年にわたる複文研究を総括した著作である。邢福义 2001 の特徴は、中国語の複文を「因果」、「並列」、「転折」の三つに分類して分析していることである¹⁾。周知の通り、複文は通言語的には、節と節の関係が等位関係 (coordination) にある文 (中国語学では“联合复句”[連合複文]などと称される) と、節と節の関係が従属関係 (subordination) にある文 (中国語学では“偏正复句”[偏正複文]などと称される) の二つに分類される。邢福义 2001:52-55 はその二分法には次の問題点があると指摘している。まず、並列、“连贯” (継起)、“递进” (累加) などの連合複文では、全ての例が等位であるわけではないということである。例えば、次の累加複文の例は、後節に逆説を表す“却反而”があり、後節に“正意” (主要な意味) があることが強調され、等位とは解釈し難いということである²⁾。

(1) 他不仅不后悔起用郎平，却反而下决心锤炼她。(邢福义 2001:53)

(彼は郎平を起用するのを後悔しないばかりか、かえって彼女を鍛える決心をした。)

次に、例えば、ある学者は“虽然…但是…”(…であるが…)を偏正複文に分類する一方で、“…但是…”(…であるが…)を連合複文に分類するなど、同一の接続詞を用いた二つの複文が二つの類に分けられることがあり、そのような解釈は受け入れ難いということである。

さらに、連合複文と偏正複文の区別は、構造的な根拠にも欠けるということである。これまで連合複文と偏正複文は、前者が“非封闭性”(閉じていない)構造で、二つ以上に区分できる一方で、後者は“封闭性”(閉じた)構造であり、二つに区切るしかできないとされてきた。例えば、次の(2)のような累加複文は、(3)のように拡張することができるので、連合複文に属する。

(2) 不但你知道，而且我也知道。(邢福义 2001:54)

(あなたが知っているのみならず、私も知っている。)

(3) 不但你知道，而且我也知道，甚至他也知道。(邢福义 2001:54)

(あなたが知っているのみならず、私も知っているし、ひいては彼も知っている。)

しかし、明らかに連合複文に属す“不是 p，而是 q”(pではなくq)のような構文は、“不是…而是…而是…”(…ではなく…であるし…だ)、“不是…不是…而是…”(…ではなく…ではなく…だ)、“不是…不是…而是…而是…”(…ではなく…ではなく…であるし…だ)のようにどんなに拡張したとしても、二つにしか区切れないということである。

一方、明らかに偏正複文に属す構文でも閉じていない構造で、拡張でき、二つ以上に区分できるものがある。例えば、次の(4)のような条件文の一種である“越 p，越 q”(pであればあるほどますます q)は、(5)のように拡張できる。

(4) 事情越多，时间越紧。(邢福义 2001:54)

(仕事が多くなればなるほど、時間はますます切迫する。)

(5) 事情越多，时间越紧，对效率的要求也就越高。(邢福义 2001:54)

(仕事が多くなればなるほど、時間はますます切迫し、効率に対する要求もますます高くなる。)

このように、連合複文と偏正複文の構造的な区別にも限界があるということである。

そこで、邢福义 2001 では、「因果類」、「並列類」、「転折類」の三分類を採用している。この三分類を採用する理由としては、意味と形式において明確に規定でき、検証可能であることなどを挙げている(邢福义 2001:49-51)。「因果類」には、広義の因果関係を表す“因为…所以…”(…なので…)、“既然…就…”(…であるからには…)、“如果…就…”(もし…なら…)などが含まれる。「並列」には、広義の並列関係を表す“既…又…”(…の上に…)、“…接着…”(…続いて…)、“不但…而且…”(…ばかりでなく…)、“或者…或者…”(…か或いは…)などが含まれる。「転折」には、広義の転折関係を表す“…但是…”、“即使…也…”(たとえ…でも…)、“…否则…”(…さもなくば…)などが含まれる。邢福义 2001 では、それらの各構文について、構造や意味的な特徴、表現機能などを詳細に記述している。

その後の複文研究においては、邢福义 2001 の記述を出発点として、それに対する再検討や不足点

の考察などを加える研究が多数見られる。例えば、邢福义 2001:526-529 では、“于是”構文を記述しているが、郭继懋 2006 では、その記述を基礎とし、“于是”と“所以”には相違があるかなどの問題点を挙げ、“于是”と“所以”の“篇章性质”（談話の性質）上の相違などを論じた。また、邢福义 2001:223-226 では、“不但…而且…”構文について、当該構文が成立するための節間の論理的意味条件、即ち、構文を用いる「内部条件」を考察したが、それに対し、徐燕青 2007 では、当該構文を用いる話し手の意図や上下の文との意味関係などの「外部条件」を考察した。さらに、邢福义 2001:340-343 では、“但”などの転折関係を表す接続詞が、“宁可…也…”（たとえ…しても…する）構文に入り、“宁可…但…”（たとえ…しても…する）という形式になることを論じたが、宋晖 2012 では、その“宁可…但…”構文について、形式、意味、語用論的特徴を詳細に記述し、さらに“宁可…但…”と“宁可…也…”の置き換え条件についても考察した。

このように、2000年以降の記述研究では、邢福义 2001 の記述を基礎とした研究が数多く見られ、邢福义 2001 は 2000年以降の記述研究に大きな影響を与えている研究であるといえる。

2.1.2 李晋霞 2015

次に、李晋霞 2015 は複文における類義の“关系词语”（関連詞）の相違を記述したものである³⁾。対照した関連詞は、「…でもあり…でもある」を表す“又…又…”と“既…又…”、「…しながら…する」を表す“一面…一面…”、“一边…一边…”、“一方面…（另）一方面…”、「さもなくば」を表す“否则”と“不然”、「…なので」を表す“由于”と“因为”、「しかし」を表す“但是”と“可是”など複文の関連詞を包括的に含んでいる。ここでは、李晋霞 2015:217-235 に示されている譲歩を表す“即使”と“哪怕”の相違について概観する。

まず、両者の論理的意味の相違については、一般に両者は“虚拟性让步句”（仮定的譲歩文）に用いられるが、“哪怕”については、まれに“无条件让步句”（無条件譲歩文）の例があり、その例の“哪怕”は“不管”（…であろうと）にほぼ相当するということである。また、“即使”にのみ“实言虚让”（実言的仮定譲歩）の用法があるということである。“实言虚让”とは、次のような、前節が事実を表す用法である。

- (6) 在解放武装力量的痛击下，敌人不得不把半数以上的兵力部署在从东河到寮保一线，来防守它的后方基地和交通运输线。即使这样，它们无法保证这个地区的“安全”，而且遭到了惨重损失。

（李晋霞 2015:221）

（解放武装組織の痛撃により、敵は半数以上の兵力を東河から寮保の最前線に配置し、後方基地と交通運輸経路を防衛せざるを得なかった。たとえそのようにしても、それらはその地区の「安全」を保証できず、さらには極めて大きい被害を受けた。）

この用法の“即使”は“虽然”（…ではあるけれども）に置き換え可能である。

さらに、譲歩節（P）の実現難易度が高い事態には“哪怕”が用いられ、実現難易度が低い事態には“即使”が用いられる傾向があるということである。以上を総合すると、“哪怕”は“即使”よりも仮定の度合いが高く、譲歩の意味がより重いということである。

次に、両者の形式的相違としては、“哪怕P”は単独で文を構成することができるが、“即使”についてはそのような用例が少ないこと、“哪怕P”がQよりも後に置かれる例が“即使”のその例より

もよく見られること、また“即使”については、上記(6)の“即使这样”のように、Pが代詞で構成されることがあるが、“哪怕”には一般にその用法がないことなどが挙げられている。

さらに、両者の語用論的相違については、“哪怕”は感嘆文に用いられることがやや多いのに対し、“即使”は疑問文に用いられることがやや多いということである。また、“哪怕”は口語、“即使”は書面語に用いられることが多い。

このように、李晋霞 2015 では、類義の関連詞について、意味、形式、語用の三つの側面からの相違を詳細に記述し、今後の記述研究にとって、参照する価値のある研究であるといえる。

2.2 認知意味論的研究

次に、認知意味論に基づく代表的な包括的研究としては、沈家煊 2003 が挙げられる⁴⁾。沈家煊 2003 は、Sweetser 1990 が英語の複文が、内容領域 (content domain)、認識領域 (epistemic domain)、言語行為領域 (speech-act domain) という三つの意味領域にわたって存在すると論じたことに基づき、それが中国語の各複文にも適用されることを示した。沈家煊 2003 はその三領域をそれぞれ“行域”、“知域”、“言域”と称している。

例として、因果複文については、次のような例を挙げている。

(7) 张刚回来了, 因为他还爱小丽。(沈家煊 2003:196)

(張剛は帰ってきた。なぜなら彼はまだ小麗を愛しているからだ。)

(8) 张刚还爱小丽, 因为他回来了。(沈家煊 2003:196)

(張剛はまだ小麗を愛している。なぜなら彼は帰ってきたからだ。)

(9) 晚上还开会吗? 因为礼堂里有电影。(沈家煊 2003:196)

(夜はやはり会議ですか。講堂で映画がありますので。)

(7) は“事理”(道理)上の因果関係を表し、「張剛はまだ小麗を愛している」ことが「張剛が帰ってきた」ことの原因であり、この“因为”は“行域”(内容領域)に属する。(8) は推理上の因果関係を表し、「話し手が張剛が帰ってきたことを知る」ことが「話し手が張剛がまだ小麗を愛している」という結論を出す」ことの原因であり、この“因为”は“知域”(認識領域)に属する。(9) は「私があなたに夜は会議かどうかを尋ねるのは、講堂で映画があるからである」という意味で、原因節は「質問」という言語行為をする原因を表し、この“因为”は“言域”(言語行為領域)に属する。沈家煊 2003:196-198 では、因果複文のほかに、さらに仮定複文“如果 p 就 q”、転折複文“虽然 p 但是 q”、選択複文“要么 p 要么 q”(p か q のどちらかだ)についても、三領域にわたって存在することを示した。その上で、沈家煊 2003:198 では、“因为”、“虽然”、“要么…要么”などは多義語としてとらえる必要はなく、この三つの概念領域を用いれば、統一的な説明ができるとしている。

また、これまでの複文の意味関係の研究では、内容領域のみによって複文の成立を判断していたが、成立しないと判断された文が実は認識領域や言語行為領域においては成立するなどの問題が存在しているということである。例えば、文焯 2002 では、次の(10b)は、“子承父业”(子は父の生業を継ぐ)という一般的な道理に合わないので、成立しないとされている。

(10a) 虽然他父亲是研究科学的, 他却读了文科。(沈家煊 2003:199)

(彼の父親は科学を研究しているが、彼は文系を学んでいる。)

(10b) * 虽然他读了文科, 他父亲却是研究科学的。(沈家煊 2003:199)

(彼は文系を学んでいるが、彼の父は科学を研究している。)

しかし、その解釈は内容領域のみを考慮しただけであり、もし認識領域を導入すれば、次のように (10b) は成立するということである。

(10c) 虽然他读了文科, 他父亲(我)却(推断)是研究科学的。(沈家煊 2003:199)

(彼は文系を学んでいるが、(私は)彼の父は科学を研究している(と推論する)。

このように、沈家煊 2003 は Sweetser1990 の三つの意味領域の概念を取り入れることで、中国語の複文や接続詞などの意味解釈に対して新たな解釈の可能性を広げた。その後の研究では、例えば、李晋霞 2011:492 では、因果複文の接続詞である“因为”と“由于”の相違を論じる中で、“因为”を用いる文は“由于”を用いる文よりも認識領域や言語行為領域で用いられる例が多いことを示している⁵⁾。また、王春輝 2015:43 では、条件文に用いられる接続詞“那/那么”の機能について論じる中で、“那/那么”が認識領域や言語行為領域の条件文に現れる傾向があること、またそのような“那/那么”は、前後の節の推理性と因果性を際立たせることを示している。

2.3 談話分析

2.3.1 方梅 2000

談話分析に基づく代表的な包括的研究としては、まず方梅 2000 が挙げられる。方梅 2000 は、従来、節と節の間の時間関係や論理関係などの真理条件的意味を表すと見なされてきた接続詞が、口語コーパスにおいて、その意味を表さず、談話マーカ (discourse markers) としての機能を持つことがあることを明らかにした。

まず、方梅 2000:460-462 では、口語コーパスにおける“所以”、“可是”、“那么”、“而且”、“然后”の例を挙げ、それらが論理的意味や時間順序関係などの真理条件的意味を表さず、談話単位の接続を補助するためだけに用いられているとし、そのような現象を接続詞の“语义弱化” (semantic reduction、意味の弱化) と称した。

その上で、中国語で意味の弱化した接続詞は、談話マーカとして、主に“话语组织功能” (談話組織機能) と“言语行为功能” (言語行為機能) を有するとした。

まず、「談話組織機能」には話題の“前景化” (前景化) と“话题切换” (話題転換) が含まれる。前者の話題の前景化とは、談話において現前の状態にはない話題を活性化し、現前の状態にする話題の処理過程のことで、“设立话题” (話題を立てる) 機能と“找回话题” (話題を戻す) 機能が含まれる。例えば、次の (11) の“所以”は、その前後の発話の間に因果関係や「論拠—結論」の関係がなく、“所以”は話題を戻すための談話マーカとして用いられている。

(11) B: 还 = 还有窝头没有?

A: 有窝头,
对,

A: 底下拿大拇指往里穿一个洞,
可能是蒸着让它方便一点儿,
汽从里面透过去,

那窝头就是 = 黄金塔啊。
 B：哎呀！
 黄金塔！
 A：是吧，
 这个 = 玉 .. 棒子面_儿，
 呃 = 做成一个呃圆锥形，
 B：是。

B：是。
 A：熟得快。
 B：是。
 A：所以，
 呃 = 这 .. 对，
 窝头，
 窝头还有。

(方梅 2000:464)

(B：さらにウオトウはありますか？
 A：ウオトウはあります。
 そう、
 そのウオトウは黄金塔ですよ。
 B：あらあ！
 黄金塔！
 A：そうですよ。
 それはトウモロコシの粉で、
 円錐形を作ります。
 B：ええ。

A：底に親指で穴を開けると、
 ちょっと蒸しやすくなります。
 蒸気が中から通っていきます。
 B：ええ。
 A：煮えるのが早いです。
 B：ええ。
 A：それで、
 それ、はい、
 ウオトウ、
 ウオトウもあります)

一方、後者の話題転換の例としては、次の(12)の“而且”の例が挙げられる。

- (12) A：农村 .. 北方农村的那个 =
 主食的花样_儿也是很多的。
 B：噢。
 A：他们 .. 而且，
 农村的人，
 很多地方他管吃饭叫“喝粥”。(方梅 2000:462)
- (A：農村、北方の農村のあの、
 主食のパターンも多いです。
 B：おお。
 A：彼らは、しかも、
 農村の人は、
 多くの地方で食事を「粥を食べる」と言います。)

前景化と話題転換に用いられる接続詞は異なり、前者には“所以”、後者には“可是”、“但是”、“而且”、“不过”などが用いられる。

次に、「言語行為機能」は、話し手が発話の機会を得るため、或いは自分の発話の機会を維持するために用いる手段であり、“话轮转接”(ターン転換)と“话轮延续”(ターン継続)が含まれる。前者には“而且”、“可是”、“不过”、後者には“然后”、“所以”、“而且”が用いられる。次の例では、

“所以”がターン継続に用いられている。

- (13) 我记得这个，我这个到了美国来了以后，就常常觉得这个，美国的家庭主妇啊，做饭的时候，常常都是啊，用很多时间。……可是在中国好像就没有像这样炸法_儿的，是不是？老是油烧得很热的，把那东西一放下去，刺啦一声，出来了，是不是？所以所以，我记得这个中国这个，食谱里头啊，有些个食谱就说，每次炒菜的时候，油烧得很热，这个菜切得很细好像是，倒上去，倒下去五秒钟还是十秒钟，就得赶快盛起来。……

(方梅 2000:467 一部省略)

(私は覚えています、えっと、私がえっとアメリカに来た後、よく思っていたのですがえっと、アメリカの主婦はね、食事を作る時、よくみんなね、多くの時間を使います。……でも中国ではそのような揚げ方はないでしょう？いつも油を熱く熱して、食材を入れ、ジュワッと音が出たら出来上がりでしょう？それでそれで、私は中国のえっと、レシピの中には、あるレシピには、油で炒める時は、油をとっても熱く熱して、食材を細かく切り、入れて5秒か10秒で、素早く盛り付けしなければならないと書かれてあるのを覚えています。……)

以上の各接続詞の談話機能をまとめると、次の表ようになる。

表：中国語の接続詞の談話機能

	前景化	話題転換	ターン転換	ターン継続
然后				+
所以	+			+
而且		+	+	+
可是/但是/不过		+	+	

(方梅 2000:468 表四 [一番上の行の各機能は日本語に訳した])

本来転折を表す接続詞は、談話マーカとなっても、話題転換やターン転換などの“转向关联”（転向関係）に用いられる。“所以”、“然后”など本来順接関係を表す接続詞は、談話マーカとしてもターン継続など“顺向关联”（順向関係）に用いられる。本来累加関係を表す“而且”は、本来の真理条件的意味が、しばしば事物の別の方面や側面を挙げ、ある道理をさらに説明することを表す。従って、談話マーカとしては、転向関係にも順向関係にも用いられる。このように、接続詞が意味の弱化により真理条件的意味を表さなくなっても、その本来の意味が談話マーカとしての機能に一定の影響を与えている。

方梅 2000 では、このほか、意味が弱化する接続詞は、複文の後節に用いられる関連詞であり、その関連詞は、前節に用いられる関連詞と比較して、真理条件的意味の負荷が少ないために、談話マーカになり易いことなどを論じている。

2000年以降、個別の関連詞の談話機能の研究では、その多くが方梅 2000 の考察を基礎とした分析がなされている。例えば、高増霞 2004、李宗江 2004 では、本来「終わった」という意味を表す“完了”が“之后”（…の後）、“然后”（それから）を表す語となり、さらに談話マーカとなることを示し、方梅 2000 で挙げられた談話機能に照らして、“完了”の機能を分析している。また、许家金 2009 では、方梅 2000 などの研究を基礎として、口語資料に見られる“然后”について、その音韻的特徴、出現位置、談話機能を詳細に分析している。马国彦 2010 では、“然后”と“但是”について、方梅

2000 で挙げられた機能以外の種類の談話機能もあることが示されている。曾君, 陆方喆 2016 では、“但是”を“反预期标记”(反预期マーカー)とした上で、反预期マーカーから談話マーカーの各機能へ変化する過程を分析している。なお、方梅 2012 では、言語行為用法の接続詞と談話マーカーとの相違や関係が論じられ、どちらも命題外の内容を表す一方で、両者が同時に用いられる場合は、後者の方がより外に置かれ、後者は前者より意味が変化しているということである。

2.3.2 姚双云 2012

次に、談話分析に基づく複文の包括的研究として挙げられるのは姚双云 2012 である。姚双云 2012:34-38 は、これまでの関連詞の研究における不足点として、口語コーパスや大規模なコーパスによる研究などを挙げ、100 万字にのぼる口語コーパスを作成し考察した。具体的には、中国語の“所以”、“结果”(結局)、“是…还是…”(…それとも…)、“但是”などの様々な関連詞について、会話における“话语连贯功能”(談話連結機能)、“话轮构建功能”(ターン構築機能)、“话题组织功能”(話題組織機能)、“立场表达功能”(スタンス表現機能)などの談話機能について論じている。

例えば、“但是”について、方梅 2000 では、転折を表す接続詞は、前述のように前景化、即ち話題を立てる機能や話題を戻す機能には用いられないとしている。しかし、姚双云 2012:185-188 では、“宏篇”(マクロ的談話)で観察すると、次のように話題を戻す機能もあるとしている。

- (14) 陈 玲：这个问题很容易理解。就是长虹是一个利税大户，是一个给国家上缴钱最多的。这是政府的心头肉，所以政府它没有办法不去关注这个事情，这是很容易理解的。但是呢这位先生所担忧的是，是不是长虹在今后的发展中这个因素会一直很大。如果很大的话，它会影响市场导向的操作。

王利芬：……

赵 勇：……5月15号实际上宣布的是集团公司的领导层，6月8号宣布的是，应该说，主要宣布的是股份公司的董事层，只是把两个放在一起对外公开。……

周孝正：我想给他总结一下，倪润峰同志的权力来源于政府，董事长兼总经理不太符合现代企业制度，现在呢他退了总经理，当了董事长，进了一大步……

陈 玲：但是他所关心的就是，在这种体制转轨中，长虹的这个命运往这走的时候，政府起了多大干扰作用，导致长虹将来的命运？

(姚双云 2012:185)

(陈 玲：その問題は理解しやすいです。つまり长虹は利益も税金も多い大手企業で、国への上納金が最も多いです。それは政府の最愛の企業なので、政府はその件に重大な注意を払わないことは無理であり、それはとても理解できます。しかしね、その方が心配するのは、长虹の今後の発展において、その要素がずっと大きいのかどうかということです。もし大きければ、市場動向の操作に影響します。

王 利 芬：……。

赵 勇：……5月15日に実際に発表したのはグループ会社の指導者層であり、6月8日に発表したのは、主に発表したのは、株式会社の理事層であり、ただ二つを一緒に対外公開しただけです。……

周 孝 正：ちょっとまとめたいのですが、倪潤峰さんの権力は政府から出てくるものであり、理事

長兼社長というのは現代の企業制度にあまり合わない。現在彼は社長を退き、理事長となり、大きな一歩を踏み出し……

陳 玲：しかし、彼が関心を持っているのはつまり、そのような体制の変化の中で、長虹の運命がその方向に向かう時、政府はどのくらいの妨害の作用を果たすか、長虹の将来の運命をどうさせるかです。

(14) では、陳玲が最初の発話で「政府の今後の市場における長虹に対する影響」を主な話題として出している。続く趙勇の発話では、「指導者層と理事層の任命情報が公開される時期」について語られ、その話題から離れている。さらに次の周孝正は倪潤峰の職位の問題について語り、やはりその話題から離れている。最後に陳玲は“但是”を用いて、それらの離れた話題を元の話題に戻している。

このほか、姚双云 2012:188-198 では、“但是”の機能として、聞き手に対し非予期のターンの導入を提示する機能、ターンを奪う機能、話題転換の機能、前の話し手の話題に挑戦する機能、話し手のスタンスを示す機能などがあることを示した。

姚双云 2012 は大規模な口語コーパスを観察することで、方梅 2000 で示された機能以外の談話機能を見いだすなど、関連詞の談話機能をより詳細に明らかにした。

2.3.3 张文贤 2017

談話分析に基づく複文の包括的研究として最後に挙げられるのは张文贤 2017 である。张文贤 2017 は、これまでの接続詞の研究においては、大きな範囲の談話における機能に注意が払われてこなかったとし、接続詞の“全局”（全局面）と呼ばれる文や段落同士を接続する接続機能について、書面語と口語それぞれにおける機能を考察した。この全局面接続機能とは、談話機能とは異なり、真理条件的意味及び非真理条件的意味のどちらも含まれるということである。

ここでは张文贤 2017:95-142 に示されている転折接続詞の考察を概観する。まず複文レベルにおいて、“但是”には、“限止”（制限）、“直接对比”（直接对比）、“隐含对比”（暗黙对比）という用法があり、この中で全局面接続機能に発展するのは、「暗黙对比」と対義語型及び比較型「直接对比」の用法であるということである。

次に、“但是”の全局面接続機能については、書面語と口語に分けて論じられている。まず、書面語における全局面接続機能としては、“标明正意”（本来の意味の明示）、“转变话题”（話題の転換）、“说话人的态度变化了”（話し手の態度の転換）などが挙げられる。ここでは、以下に「話し手の態度の転換」の例を示す。

(15) 其实，我们这么大的一个国家，有些专题式的综艺晚会无可厚非。特别是有的晚会，如几个全国性的春节晚会和其他一些纪念、庆祝性的晚会，质量比较高，又有特殊意义，已成为我国人民文化生活的一部分，不但应当举办，还要越办越好。但是，凡事都不可太多，太多容易泛滥，泛滥就不讲质量，就会雷同，就造成极大浪费。（张文贤 2017:107）

（実際、我々のこんなに大きな国家では、いくつかの特定のテーマのバラエティ晚会番組は、欠点はあるが取るべきところはある。特にある晚会、例えばいくつかの全国規模の春節晚会やその他の記念、祝賀的な晚会は、質が比較的高く、特別な意義もあり、我が国の人民文化生活の一部になっており、

実施すべきであるばかりでなく、さらにますますよくしていかなければならない。しかし、およそ何でも多すぎてもならない。多すぎれば氾濫しやすく、氾濫すれば質を気にしなくなり、同じようなものになり、極めて大きな浪費を生み出す。)

(15) は、“但是”の後の談話が、その前の談話に対する反対意見であり、“但是”は話し手の態度の転換を明示している。

次に、口語における“但是”の全局面連接機能としては、“切断正向推理”（前方推論の切断）、“反駁”（反駁）、“修正”（修正）、“提醒”（注意）、“中断当前话题”（現在の話題の中断）などが挙げられる。この中で、「前方推論の切断」とは、話し手が聞き手の推論が適切ではないと感じた際に、“但是”によってその推論を切断することであり、次のような例が挙げられている。

(16) A：……，我回去我跟你说主要几个任务哦，这次回去，

B：嗯，

A：一个就是说那个呃，呃，咱们要好好讨论讨论，

B：嗯，

A：再一个呢呃，

B：嗯那，嗯，

A：次要一点点，**但是**我觉得应该办的我就说，

B：嗯，

A：呃，应该替我父母把房子问题给——在某种程度上给解决一下。

B：嗯，嗯，嗯，嗯，

……

(张文贤 2017:108 一部省略)

(A：……私が帰る主な任務を言うとね、今回帰るのは、

B：ええ、

A：一つはつまり、よく話し合わなければならないということで、

B：ええ、

A：もう一つはね、

B：ええ、ええ、

A：次に大事なことですけど、でも私はやらなければならないことを言うと、

B：ええ、

A：私の両親に代わって家の問題を、ある程度解決させなきゃならない。

B：ええ、ええ、

……)

(16) では、聞き手 B が、話し手 A が“次要一点点”（次に大事なこと）と述べたことに基づいて、「その事柄は重要ではない」と推理することに対して、A は“但是”を用いて、その推理を切断している。

张文贤 2017:95-142 では、以上のような“但是”の談話における機能を記述する以外に、その他の転折を表す“可是”、“其实”、“不过”、“然而”などとの機能の相違、また“虽然”と“但是/但”が

共起する文法、意味、語用論的条件などについても考察している。

このように、張文賢 2017 は、接続詞の談話における機能の記述だけではなく、類義語との接続機能の相違や接続詞の使用条件についても考察し、今後の複文研究において注目に値する研究書であるといえる。

3. 因果複文の研究動向

次に、本節では、個別の複文の研究動向として、最も研究が盛んな複文の一つに挙げられる因果複文を取り上げ、その研究動向を概観する。2000年以降の因果複文に関する研究の方向としては、主に類義の接続詞の相違、節の語順、接続詞の使用条件、接続詞の談話機能などが挙げられる。以下に節を分けて概観する。

3.1 類義の接続詞の相違

因果複文の接続詞には、原因節に用いられる“因为”、“由于”、“既然”、結果節に用いられる“所以”、“于是”、“因而”、“因此”、“从而”などが挙げられる。2000年以降、これらの類義の接続詞の相違についての研究が進められている。

例えば、趙新 2003 は、“因此”、“从而”、“于是”の相違について、文の意味関係や事態の動態性、接続機能、文法的制限などの点から相違を考察した。例えば、それらの接続詞は、いずれも動態的事態に用いることができるが、“因此”のみ判断文、評論文といった静態的事態に用いることができる。また、“因此”と“于是”は節のほかに文や段落を接続することができるが、“从而”は節のみ接続するということである。

李晋霞, 刘云 2004 は“由于”と“既然”の相違を主観性 (subjectivity) の観点から考察した。“由于”は Sweetser 1990 の内容領域で多く用いられる傾向があり、“既然”は認識領域や言語行為領域で多く用いられる傾向がある。内容領域は客観的な実際の状況を反映し、認識領域と言語行為領域は話し手の主観的な態度や認識に関わる。従って、“既然”は“由于”よりも主観的であると結論づけ、それぞれの構文の節の順序や主語の性質などの点から、そのことを証明している。

郭继懋 2006 は“于是”と“所以”の根本的な相違は、談話 (テキスト) の性質の相違にあることを明らかにした。即ち、“于是”は時間軸に沿って出来事を紹介する「叙述」(narrative) に用いられ、一方“所以”は、比較的抽象的な属性などを紹介する「説明」(expository) や、ある信じられていない観点をめぐって、聞き手のその観点に対する懐疑を取り除く「論証」(argumentative)、或いは叙述や説明、論証を兼ね備える談話に用いられるということである。そのため、“于是”は単方向の時間順序に沿って展開するモノログに用いられ、“所以”はモノログ以外に対話にも用いられることなど、それぞれの文の特徴を示した。

李小军 2009 は“从而”と“因而”について、意味や文法機能の相違を考察した。それらの接続詞が接続する文は、静態因果文、因果連結文、目的因果文、単純目的文の四種類に分けられる。静態因果文は、結果節が判断文や説明文など静態的事態を表す文で、因果連結文は、結果節が動作性や時間性を有する文で、目的因果文は、前後の節に因果と目的いずれの関係もある文、単純目的文は、前節が行為、後節が行為の目的を表す文である。“因而”は静態因果文、因果連結文、目的因果文に

用いられ、“从而”は因果連結文、目的因果文、単純目的文に用いられる。即ち、“因而”は因果関係を表す文に多く用いられ、“从而”は目的関係を表す文に多く用いられるということである。

李晋霞 2011 は、2.2 節でも触れたが、“因为”と“由于”の相違について考察し、“因为”を用いる文は“由于”を用いる文よりも認識領域や言語行為領域で用いられる例が多いこと、また、“因为”は仮定の事態を原因にすることができるが、“由于”は一般にすでに起こった現実の事態が原因となるなどの相違を示した。

钟小勇, 张霖 2013 は、“既然”文と“因为”文について、主観性の観点からの相違を分析している。“既然”文は“交互主観性”（間主観性、intersubjectivity）を表し、P が会話双方が共に知る根拠であり、Q が会話双方が共同で受け入れる結論であること、“因为”文は必ずしも間主観性を表さないことなどの相違を指摘している。

徐燕青 2016 は、“于是”と“所以”の相違について、上述の郭继懋 2006 を基礎とし、そこで深く考察されていない点を指摘した。その上で、談話において、描写性を有するか説明性を有するか、過程性を有するか否か、修辭性を有するか否かという三つの相違について示した。また、“接着”（続いて）とも比較し、“于是”が“接着”と“所以”の間にあること、即ち、“于是”が時間的な順序に基づいて緊密に結びつける“接着”の特徴を有するとともに、前の原因から結果を得るという“所以”の特徴も有しているとした。

以上のように、因果複文における類義の接続詞の相違については、文法機能、文が表す事態の特徴、主観性、用いられる談話のタイプ（文体）などの観点から、考察が加えられている。

3.2 原因節と結果節の順序と機能

因果複文には、“因为”節などの原因節が前置された「原因節—結果節」という語順の文と、原因節が後置された「結果節—原因節」という語順の文がある。邢福义 2001:61 では、前節が原因、後節が結果を表すのが一般的であるとされている。

しかしながら、宋作艳, 陶红印 2008:63-64 の調査では、口語、書面語コーパスともに原因節が後置されることが多いことが示された。宋作艳, 陶红印 2008 は、中国語と英語の原因節の機能の共通点として、前置原因節については、主に因果関係の論証のための背景知識を提供するという機能があり、一方、後置原因節については、前文に対して説明をし、マイナス要素を消して、インタラクションを順調にするという機能があることが示された。特に後置原因節の機能が詳細に考察され、書面語における後置原因節は、次のように、否定の表現の後に置かれることが最も多いことを示している。

(17) 我国现在股票市场上流通的“股票”只有极少一部分是真正的股票，绝大多数都不是股票，因为发行“股票”的企业都不是规范的股份制实体。（宋作艳, 陶红印 2008:67）

（我が国の株式市場で流通している「株券」はごくわずかのみが本物の株券で、大多数は株券ではない。なぜなら「株券」を発行する企業が規範的な株式制度の実体ではないからだ。）

(17) では、「大多数の株券が本物の株券ではない」が読者にとって意外な事態であり、後に続けて“因为”を用いてそれに対する説明を行っている。後置原因節が否定の後に置かれることが多いのは、否定がしばしばよくない状況を表し、人々の期待に反し、後に“因为”を置いて説明する必要がある。

あるためということである。

以上のような宋作艳、陶红印 2008 の考察については、異論やより発展的な研究が見られる。例えば、肖任飞 2010:39 の調査では、因果複文の節の順序が文体別に調査され、口語では「結果—原因」の語順が優勢であるが、小説、新聞雑誌、科学普及などの書面語では、「原因—結果」の語順が優勢であることが示された。また、高再兰 2013 は宋作艳、陶红印 2008 の調査が、“因为”や“所以”などの因果関係を明示するマーカのある文に限って統計を取り、それらのマーカがない文については考慮されていないという問題点を指摘している。一方、2.3.3 節で概観した张文贤 2017:55-74 は、複文レベルでは、前置“因为”の論証性は後置“因为”よりも強いが、全局面連接レベルでは、前置“因为”は機能をせず、後置“因为”は、書面語においては、論拠の導入や背景の提供を含む論証の機能を果たし、口語においては、背景情報の提供や話し手が自己調整し情報を補充する機能などを果たすことを論じた。

3.3 接続詞の使用条件

“因为”、“所以”などの因果複文に用いる接続詞は、文によって使用の可否が分かれている。郭继懋 2004 は、“因为”が置かれた原因節（“因为 P”）と置かれていない裸の原因節（“光杆 P”）について、後者は前者の省略形式であるという従来の解釈を否定し、それぞれの機能の相違点をいくつか見出した。例えば、裸の P は、次のように、情報価値が高い事態に用いるのに適しているということである。

(18) 出事了，陈总经理夜里在家里吃安眠药自杀了，所以我又要忙上一阵子了。

(郭继懋 2004:224)

(事件が起こった。陳社長が夜に家で睡眠薬を飲んで自殺したので、私はまたしばらく忙しくなった。)

(18) において、陳社長が自殺したという事態は情報価値が高く、文頭（“出事”の前）に“因为”を置くことはできない。また、裸の P は、情報価値の高い事態に用いるため、ある出来事を詳細に述べる時や物語のプロットに用いるのに適している。一方、“因为 P”は前に言及済みの旧情報などに用いるのが適しているということである。

高再冉 2013 は、“因为”が前置される場合と後置される場合の二つに分けて、“因为”の使用条件を考察した。まず、前置“因为”は、次のように、節間に時間の前後関係がない場合、必ず用いられる。

(19) 因为感冒，小王今天放弃比赛了。(高再冉 2013:58)

(風邪なので、王さんは今日試合を放棄した。)

(19) の前節“因为”は事物の状態を表し、動的な事態ではないため、ほかの事態と直接的な時間の前後関係を確立することができず、このような事態には、“因为”が必要であるということである。また、節間に時間関係があっても、「同時」と「前後」の二つの読みができる場合は、前後関係を明確にするために“因为”が必要であるということである。一方、時間の前後関係が明確である文については、“因为”は省略可能であり、用いられるのは、語用論的な理由によるということである。

次に、後置“因为”については、次の(20a)のような倒置の原因文と、(21a)のような“进一步说明句”(さらに説明する文)の二つに分類して考察している。倒置の原因文とは、(20b)のように、そのまま前後の節を反対にしたり、時間副詞“才”などを用いることなどにより、前置“因为”文に転換できる文を指す。一方「さらに説明する文」とは、(21b)が非文になるように、前置“因为”文に転換することができない文である。

(20a) 他亡了国，因为不懂得武装斗争的重要性。(高再冉 2013:60)

(彼の国は滅んだ。なぜなら武装闘争の重要性を理解していなかったからだ。)

(20b) 因为不懂得武装斗争的重要性，他亡了国。(高再冉 2013:60)

(武装闘争の重要性を理解していなかったから、彼の国は滅んだ。)

(21a) 我不是不想办，而是办不到，因为懒惰成性，一想干活就恶心。(高再冉 2013:60)

(私はやりたくないのではなく、できないのだ。なぜなら怠け癖がつき、働こうとすると気分が悪くなるからだ。)

(21b) * 因为懒惰成性，一想干活就恶心，我才不是不想办，而是办不到。(高再冉 2013:60)

この二つのタイプの文の中で、倒置の原因文は“因为”が省略不可であり、「さらに説明する文」は“因为”を省略可能であるということである。

このほか、张文贤 2017:64 は、真理、名言、事実など普遍的に知られていたり受け入れられていたりして、話し手が強力な論拠であると認識する事態には、“因为”が用いられると指摘している。徐燕青 2017 は、“因为”、“所以”など原因と結果を表すマーカの使用条件を考察し、例えば、原因を表すマーカについては、原因節の事態が遠く前の文脈で言及され、直前の文脈がその内容と直接的な関係のない場合に、“因为”が用いられることなどを指摘している。また、原因と結果のマーカは、共に用いられるより、片方だけ用いられる方が多いが、それは常に原因か結果いずれかがより強調されるからだと論じている。王静 2019 は“所以”の使用可否の条件を分析し、結果節が複雑であることが省略できる第一の前提条件であり、その上で、前後の節の主題が同一であること、前後の節が現実性、非現実性の点で同質であることなどの省略可能な条件を挙げている。

3.4 接続詞の談話機能

因果複文に用いられる接続詞の談話機能は、まず 2.3.1 節で概観した方梅 2000 で“所以”に前景化機能(話題を立てる機能と話題を戻す機能)とターン継続機能があることが示された。姚双云 2009 は、“所以”の談話機能についてさらに詳細に分析し、ターン開始語、話題の継続、話題を戻す、ポーズを埋める、話題の転換などの機能があることを見出した⁶⁾。例えば、話題の継続については、次のような例が挙げられている。

(22) H: 我觉得您刚才说到的这点特别关键，关键是处在什么位置、来关注他的什么天气。所以接下来呢，我们要来看一看全国部分城市的天气预报，各位可以选择任何一个领域来告诉我们，你对这个领域的企业 2007 的一个判断，好不好？在此之前呢，我们也交给北大的学生。(姚双云 2009:60)

(H: 私は先ほどあなたが述べたその点は特に肝心の点だと思います。肝心の点はどこにあるのか、

それがどのような天気なのかに注目します。そこで続いて、私たちは全国の一部の都市の天気予報を見てみましょう。各位任意の分野を選んで伝えて下さい。その分野の企業の2007年に対する判断をして下さい。その前に、私たちは北京大学の学生にお渡しします。）

(22) では司会 (H) がゲストの観点に同意し、続けてその話題に沿ってゲストと観客に一部の都市の経済情勢(「天気」に例えている)を予測するように働きかけている。

このほか、2.3.3節で概観した张文贤 2017:63-82では、“因为”、“所以”について、談話機能を含む全局面連接機能が分析されている。

4. まとめ

2000年以降の中国語の複文研究は、方梅 2000や沈家煊 2003を契機とし、刑福义 2001などのようなそれまでの文レベルの記述研究を基礎とし、考察の範囲を談話に拡大し、節や接続詞の談話における機能などの研究が特に進展してきたといえる。一方で、近年は、関連性理論 (Relevance Theory) の観点から転折複文を分析した张健军 2013、構文文法 (Construction Grammar) の観点から“因为 NP, 所以 VP”構文を分析した马伟忠 2018など、新たな観点からの研究も現れ始め、今後の進展が期待される。

<注>

- 1) これまでの複文の分類に関する先行研究をまとめた論考として、李晋霞, 刘云 2017が挙げられる。中国語の複文の分類は、形式的に決定的な要素がないため、未だ定説がない。
- 2) 等位接続構造に、等位とは解釈できない非対称性 (asymmetry) が見られることは、Langacker 2008: 406-419などでも論じられ、通言語的にも注目されている問題である。
- 3) “关系词语”は、中国語ではほかに“关联词语”、“关系词”、“关联标记”などとも称される。本稿で用いる訳語としては、日本における中国語文法研究でしばしば用いられる「関連詞」で統一する。
- 4) 沈家煊 2003は日本語訳(西村英希・蘇霖坤訳 2018)がある。
- 5) 李晋霞 2011は後に李晋霞 2015:207-216にも収録されている。
- 6) 姚双云 2009は後に姚双云 2012:83-93にも収録されている。

<参考文献>

- 曾君, 陆方喆 2016. 「从反预期到话语标记——论“但是”的语用功能及演变」, 『语言科学』2016年第4期: 391-400页。
- 方梅 2000. 「自然口语中弱化连词的话语标记功能」, 『中国语文』2000年第5期: 459-470页。
2012. 「会话结构与连词的浮现义」, 『中国语文』2012年第6期: 500-508页。
- 高再兰 2013. 「前、后置“因为”的隐现及功能差异」, 『汉语学报』2013年第2期: 57-65页。
- 高增霞 2004. 「自然口语中的话语标记“完了”」, 『语文研究』2004年第4期: 20-23页。
- 郭继懋 2004. 「从光杆P与“因为P”的区别看“因为”的作用」, 『南开语言学刊』2004年第2期: 223-229页。
2006. 「“于是”和“所以”的异同」, 『汉语学报』2006年第4期: 27-34页。
- 李晋霞 2011. 「论“由于”与“因为”的差异」, 『世界汉语教学』2011年第4期: 490-496页。
2015. 『相似复句关系词语对比研究』。北京: 中国社会科学出版社。
- 李晋霞, 刘云 2004. 「“由于”与“既然”的主观性差异」, 『中国语文』2004年第2期: 123-128页。
2017. 「论汉语复句分类的形式特征」, 『语文研究』2017年第3期: 6-10页。

- 李小军 2009. 「“从而”、“因而”的功能差异及其历时解释」, 『汉语学习』 2009 年第 1 期: 50-56 页。
- 李宗江 2004. 「说“完了”」, 『汉语学习』 2004 年第 5 期: 10-14 页。
- 马国彦 2010. 「话语标记与口头禅——以“然后”和“但是”为例」, 『语言教学与研究』 2010 年第 4 期: 69-76 页。
- 马伟忠 2018. 「汉语因果句式“因为 p, 所以 q”研究」, 『语言教学与研究』 2018 年第 3 期: 71-81 页。
- 沈家煊 2003. 「复句三域“行、知、言”」, 『中国语文』 2003 年第 3 期: 195-204 页。
- (西村英希·蘇霖坤译 2018. 「複文の三領域—内容(行), 認識(知), 言語行為(言)」, 『認知と中国語文法』: 226-256 頁。大阪: 日中言語文化出版社。)
- 宋晖 2012. 「“宁可 p, 也 q”与“宁可 p, 但 q”的转换条件」, 『汉语学习』 2012 年第 1 期: 35-41 页。
- 宋作艳, 陶红印 2008. 「汉英因果复句顺序的话语分析与比较」, 『汉语学报』 2008 年第 4 期: 61-71 页。
- 王春辉 2015. 「条件句中的“那/那么”」, 『汉语学习』 2015 年第 2 期: 41-48 页。
- 王静 2019. 「因果复句中单用果标“所以”的省略环境」, 『汉语学习』 2019 年第 4 期: 71-76 页。
- 文炼 2002. 「蕴含、预设与句子的理解」, 『世界汉语教学』 2002 年第 3 期: 5-9 页。
- 肖任飞 2010. 『现代汉语因果复句优先序列研究』。北京: 中国社会科学出版社。
- 邢福义 2001. 『汉语复句研究』。北京: 商务印书馆。
- 许家金 2009. 「汉语自然会话中“然后”的话语功能分析」, 『外语研究』 2009 年第 2 期: 9-15 页。
- 徐燕青 2007. 「“不仅 p, 而且 q”使用的外部条件」, 『汉语学报』 2007 年第 2 期: 79-84 页。
2016. 「“于是”和“所以”篇章使用的倾向性差异」, 『汉语学习』 2016 年第 4 期: 64-74 页。
2017. 「“因为 P, 所以 Q”类句式的语用条件——兼及标志词的使用考察」, 『汉语学习』 2017 年第 5 期: 39-51 页。
- 徐阳春 2002. 『现代汉语复句句式研究』。北京: 中国社会科学出版社。
- 姚双云 2009. 「口语中“所以”的语义弱化与功能发展」, 『汉语学报』 2009 年第 3 期: 16-23 页。
2012. 『自然口语中的关联标记研究』。北京: 中国社会科学出版社。
- 张健军 2013. 「关联视角下的转折复句反预期表达现象分析」, 『世界汉语教学』 2013 年第 4 期: 454-469 页。
- 张文贤 2017. 『现代汉语连词的语篇连接功能研究』。北京: 北京大学出版社。
- 赵新 2003. 「“因此、于是、从而”的多角度分析」, 『语文研究』 2003 年第 1 期: 26-29, 34 页。
- 钟小勇, 张霖 2013. 「“既然”句子和“因为”句主观性差异探」, 『汉语学习』 2013 年第 4 期: 35-40 页。
- Langacker, Ronald. W. 2008. *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. New York: Oxford University Press.
- Sweetser, Eve. 1990. *From etymology to pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.

(本学経済学部准教授)